

ホーム名：グループホームいなば

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示している	ホームの基本的な福祉方針は、法人である大恵会の理念を継承したものである。その骨子は職員の規律を正すことに3項目、入居者の気持ちに沿った支援の実践に3項目として要約され、ホームの入口に掲示されている。	理念から今年の支援活動の努力目標として「穏かな雰囲気づくり」が挙げられている。この努力目標の文言はリビングにも掲示され職員の周知に努めて頂きたい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会へ応援に行ったり、公民館まつりを見にいったりしている。	地区の老人会からは常時、ホームの推進会議に出席してもらっている。周辺には企業の事業所が多いが、地区とは公民館を通しての関わりで行事や祭事にも参加している。	地元の住宅街からは少し距離があるようだが、出来る限り地元住民との接点を模索され相互理解の絆を深めていくよう期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で取り組んでいる季節行事やレクリエーションの報告を行っている	会議では職員や入居者の予防接種、入居者数の変動、写真付き行事の様子など報告され共有し合っている。これからの予定づくりも話し合われサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	法改正の時や自己報告など必要に応じて、連絡・相談を行う	市町村担当者には運営推進会議で出席を願ったりしているが、法律上の問題や介護支援上での相談などでは、こちらから出向いて行ったりしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行っている。	身体的拘束のない支援を実践している。入職時と年1回は身体拘束をしないケアの研修をしている。玄関の施錠は入居者が一人で戸外に出ないようにする事と人里離れているための防犯の理由もある。	これからも拘束なき介護支援をされていくために職員間で勉強会などを企画してみてもどうか。研修内容の理解の共有化にも繋がると考えられる。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	定期的に研修を行っている。		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明を行い、ご理解いただくようにしている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	2カ月に1回運営推進会議を行っている	家族の意見や要望は主に運営推進会議などで発議され検討されている。家族の来訪時の職員との会話が重要な接点となるが、あまり多くは語られないようである。施設の方ではできる限り積極的に聞き取るようには努力している。
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	毎月、グループホーム会議を行っている	職員は月々のグループホーム会議において毎日の支援活動について気付いたことやあるいは共有すべきことなどを話し合い、同時に新たな提案なども管理者に申し入れたりしている。行事予定の進捗状況、勤労日の変更、用具の買い替えなど運営全般にわたり反映の対象とされ検討されている。
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	就業規則を整備している	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	実務者研修の受講希望者には、勤務調整を行い、協力を努めている	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	年2回、グループホームの情報交換会には、参加している。	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>できるだけ、接する時間を多く取るようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面会時には、状況を報告するようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービスを必要としている場合は、情報の提供に努めている。要介護3以上の方には、特養の入所申し込みも可能な事をご案内している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>できる人には、食器を洗ったり、台ふき、洗濯物たたみ等をしてもらって、職員や他の利用者から、お礼を言われる機会をもつ。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>定期的に家族会を行い、交流に努めている。通院介助など関わってもらっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居しても、それまでのかかりつけ医を受診できるよう、家族に働きかけている。</p>	<p>入居者一人ひとりの生活歴から馴染みの場所や人などを把握されている。ほとんどは職員との会話を通して話される場合が多い。最近では訪問美容師や外出時の喫茶店などが馴染みの人や場所になっている。施設では家族と協力しながら入居者の思いを实らせるように努力している。</p>	<p>施設を訪問する人々や、また、ボランティア活動の方々を増やされ、入居者との接点を増やして頂きたい。その機会毎に新しい人にも馴染みの人となってもらえる支援もお願いしたい。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎日の家事の中で、役割をもったり、関わり合いをもてるよう、促している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要に応じて、相談に努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発言から、希望をくんだり、実際に参加した時の表情で判断するなどして、笑顔がみられることを優先する。	職員は日ごろの支援や介助を通して入居者の思いや意向を感覚的に理解している。本人だけの特徴的な仕草などは家族からの話などを参考にしている。	職員同士で判断に違いがないように常によく話し合わせ共有されるようお願いしたい。また家族と相談されるのも有効な手段と考えられる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に、本人や家族から聞き取りを行うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を、朝の申し送りや会議などで共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6カ月に1回、作成する。必要に応じて、変更を検討する。	管理者が中心になり6か月をめぐりに介護計画を作成している。基本的な要素にはモニタリングから分析して得られた結果と家族や職員とのカンファレンスを通じ、総合的な判断を行っている。入居者の体調の変動については、常に対応できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録、申し送りし、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体で、多種の事業所を運営しており、ワンストップケアを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前のかかりつけ医への通院が継続できるよう、家族へ働きかける。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医への通院継続を希望するか、往診医を希望するか相談する。通院が困難な場合は、往診医に変更することも提案する。	家族の意向を尊重するようにしている。従来からのかかりつけ医との絆を守る事も認めながら協力医の利点も考慮してもらい家族に判断してもらっている。加齢の面もあり従来からのかかりつけ医の受診には通院上の難しさもあるようである。	

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>月二回の訪問看護師の来所時に、相談を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した場合は、病院を訪問したり、家族に連絡して、情報収集に努める。また、退院時</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、施設でできることを説明している。</p>	<p>入居時に重度化した場合の医療処置や終末期までの支援について、再度詳しく話し合うと説明している。医師が重度化と判断した場合は、併設の特養で受入れを行い終末までの支援を行っている。家族の要望によって他の施設や医療機関の紹介もしている。</p>	<p>家族とは、これからも、十分な話し合いをされ互いに理解と協力が得られる関係の継続をお願いしたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年2回、救急救命講習を実施している</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設内での避難訓練を行っている。法人として、非常食や、カセットコンロ、オムツの備蓄を行っている。</p>	<p>避難訓練は年2回実施され一回は消防署の立ち合いのもと、もう一回は自主訓練で夜間出火の想定で行われている。</p>	<p>各人の避難カードを作成されてはどうだろうか。カードには名前、年齢、血液型、薬の種類などを記入し非常ベルの横に赤い袋にでも入れ設置して置く。避難時には誘導者がカードを入居者の上腕に、はめるようにされては如何だろうか。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行っている。	一人ひとりの人格を尊重し名前は「さん」付けをしている。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。排泄時にはそれとなくトイレ誘導をしている。年に一度は内部研修を行い人格やプライバシー確保の認識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞き取り、希望がかなうよう努める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、訪問散髪が利用できるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食べるようにしている。後片付けも、声掛けをして、参加してもらえるようにしている。	法人の特養の中で給食会社が食事を作っており、そこから配給されたものを温めて配膳している。食事は職員と共に頂くようにしており和気あいあいとした雰囲気がある。入居者の配膳は少し難しいようであるが職員と一緒に手伝うようにしている。春暖くなれば外食をする事もある。	各入居者のそれぞれの好みの漬物など一品を添えてみてはどうか。冷蔵できる物に限られるが食をそそのものと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養士が献立した、栄養バランスの取れた食事を提供している。必要に応じて、様々な形態の食事やお茶ゼリーの対応も可能		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて、歯磨き介助をしている。入れ歯は、夜間は預かって、洗浄剤に浸ける。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時、随時の声掛け・誘導をし、トイレで排泄できるよう心掛けている。	一人ひとりに合った排泄チェック表に従って声かけをし、トイレ誘導するようにしている。自分でできる事は見守りするようにし、自立への方向付けを行うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないよう、確認、声掛けを行っている。昼食前と夕食前に、ラジオ体操など運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日、時間は決まっている。午前中にお声を掛けて、行きたくないと言われたら、午後に入れるよう調整したり、体調をみて、清拭や中止にすることもある。	週に2、3回は入浴するようにしている。湯はそのつど入れ替えしている。洗髪、下着の交換もされ、清潔さを図っている。入浴を拒む入居者には時間をずらして誘うようにしている。入居者の体調を最優先しているため、清拭にとどめる場合もある。入浴剤や、しょうぶ湯、ゆず湯などを楽しんでもらうこともある。	入浴剤の投入日をもう少し増やされ入居者に入浴意欲を高められては如何だろうか。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更などがあれば、申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる人には、食器を洗ったり、台ふき、洗濯物たたみ等をしてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気候などをみて、特養の庭など、に散歩に出たりしている。	施設内にはかなり広い敷地があり、週に2回ぐらいは散歩するようにしている。小学校、幼稚園の合同運動会があるときや近隣の花見の季節の時には出かけたりしている。馴染みの喫茶店にもでかけたりして入居者に喜ばれている。	家族が訪問された時などには一緒に敷地内を散策されるのも楽しいかと思われる。ぜひ実行されたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない。全員が認知症であり、現金の紛失・思い違いによる不穏やトラブルを防ぐため、家族様管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望があれば、家族様の了解を得て、電話や手紙のやり取りの支援をする。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に植わっている、季節の草花を飾ったり、壁画で季節感を取り入れている。テーブルや椅子、床を、温かみのある木製や木目調のものを多く採用している。リビングの大きな掃き出し窓は明るく、開放感のあるつくりになっている。	広くて明るいリビングには中央にテレビが配置されており、壁には職員とともに作った絵や作品が飾られ潤いを与えている。入居者はいつでも自由に自分の場所を移動できて一日中無理のない時間をリビングで過ごせるようになっている。	広いリビングのどこか一角に畳の間を作られてはどうか。入居者がそこに日本的な寛ぎを感じることができて喜ばれるのではないだろうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外に、ソファを複数用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時、ご自宅から、馴染みの家具をお持ちいただくようお願いしている。	居室の中には長年使いなれたタンスや衣服や置物が持ち込まれ、その人らしい部屋づくりがされている。カレンダーや時計なども設置され、今日一日の時間を職員とともに共有しあっている。部屋の掃除は週2回実施され、布団干しは乾燥機を利用している。	入居者がカレンダーから見る数字だけでは季節としての実感が伝わりにくいように思えた。何か季節感がわかるような装飾の、ひと工夫をされてみては如何だろうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる人には、食器を洗ったり、台ふき、洗濯物たたみ等をしてもらっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない